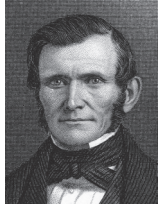


ジョセフ・スミス、王国の業を続ける よう十二使徒定員会に命じる

ウィルフォード・ウッドラフ大管長（1807 - 1898年）は、1844年の春にジョセフ・スミスが十二使徒とともに開いた集会について説明する次の記述を残しました。



「神の預言者であるジョセフ・スミスは、わたしたち十二使徒を……呼び集め、何日もともに過ごしてエンダウメントを授け、それまでに神から明らかにされていた栄えある原則を教えしました。そしてあるとき、ジョセフは立ち上がると、3時間近くにわたって、この終わりの時に神が地上で業を果たすために用意された、大いなる最後の神権時代について説明しました。部屋はまるで焼き尽くす火で満たされたかのようにになりました。預言者は神の力を大いに身にまとい、その顔は輝きを放って透明に澄んでいました。そしてこの世においても永遠にわたっても決して忘れることのできないその話を、次の言葉によって結びました。

『兄弟の皆さん、わたしは自分に授けられた神の王国の鍵を人々の頭上に結び固めることのないまま、その鍵とともに地上から取り去られてしまうのではないかと心配し、心に大きな悲しみを抱いてきました。神はわたしの頭上に、教会、シオン、神の王国を地上に組織して築き上げ、聖徒たちを人の子の来臨に備えるために必要な、神の王国のすべての鍵を結び固められました。そして今、兄弟の皆さん、わたしは皆さんにエンダウメントを授けられるようにされた日を生きて見ることができ、神に感謝しています。わたしは神が結び固めてくださったアロン神権とメルキゼデク神権と使徒職のすべての力を、すべての鍵と力とともに皆さんの頭上に結び固めました。また今、この教会と神の王国のあらゆる働きと義務と責任とを皆さんの手にゆだねます。そして主イエス・キリストの御名によって、わたしは皆さんに、天と地の前で、また神と天使と人々の前で、力を合わせてこの教会すなわち神の王国を担っていくように命じます。』（『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』20）

- この話で印象に残ったのはどんなことですか。
- 使徒たちが神の王国の鍵を持つ必要があったのはなぜでしょうか。